

みなとのニュース

小樽港第3号ふ頭クルーズ船岸壁 供用記念式典・みなとオアシス小樽登録証交付式

北海道開発局 小樽開発建設部

小樽市と北海道開発局小樽開発建設部は、令和6年4月21日(日)ダイヤモンド・プリンセスの寄港に合わせて、小樽港クルーズターミナルにて「小樽港第3号ふ頭クルーズ船岸壁供用記念式典」を開催しました。式典では、約120人が出席され、^{ほごま}迫小樽市長の式辞で始まり、堂故国土交通副大臣の挨拶、中村裕之衆議院議員、鈴木宗男参議院議員、佐藤英道衆議院議員、岩本剛人参議院議員、おおつき紅葉衆議院議員からの来賓祝辞、祝電披露、事業概要報告が行われました。また、式典前の祝賀イベントとして、クルーズ船のお見送りで活躍されている小樽双葉高等学校吹奏楽部による演奏やおたる潮太鼓保存会による打演が披露され、式典に花を添えました。

これまで、小樽港に寄港する大型クルーズ船は、観光の中心地である小樽運河や中心市街地商業地区から2.5km離れた勝納ふ頭を利用していました。一方で、わずか300mに位置する第3号ふ頭は老朽化が進んでいたことから、既存岸壁を有効活用し、大型クルーズ船が係留できる機能を追加する第3号ふ頭クルーズ船岸壁の整備を2014年から開始しました。

本年3月に第3号ふ頭クルーズ船岸壁が完成したことによって、観光の中心地等への徒歩移動が容易となることから、多様なクルーズ観光需要に寄与することとなります。



クルーズ船岸壁全景(空撮)



テープカット・くす玉開披



ダイヤモンドプリンセス

クルーズ船岸壁が完全供用となった令和6年度の小樽港へのクルーズ船寄港は31隻を予定しており、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の29隻を上回るものとなっています。

また、当日は式典に併せて、港を核としたまちづく



みなとオアシス小樽・登録証交付

りを促進する「みなとオアシス小樽登録証交付式」が行われました。堂故国土交通副大臣から小樽市迫市長へみなとオアシス小樽の登録証が交付され、みなとオアシス小樽運営協議会の西条文雪会長が事業概要を説明されました。みなとオアシス小樽は、3月にオープンした「小樽国際インフォメーションセンター」を代表施設とし、小樽港クルーズターミナルなどで構成されており、全国161カ所、北海道内では13カ所目の登録となります。

来賓の方々からは、小樽港への期待を述べられ、最後に来賓や関係者によりテープカットとくす玉開披が執り行われ、供用開始を祝いました。

今後、小樽港は様々なクルーズ船の受け入れが可能

な日本海側北部のクルーズ拠点へと発展し、クルーズ船の寄港回数の増加と乗客の地元消費拡大が期待されているところです。



小樽国際インフォメーションセンター

石狩湾新港開港 30 周年記念式典の開催について

石狩湾新港管理組合 企画振興グループ

令和6年6月、石狩湾新港は、関税法に基づき、外国との貿易が出来る国際貿易港として開港してから30周年を迎え、同月10日(月)、石狩湾新港開港30周年記念事業実行委員会(事務局：石狩湾新港管理組合)が、開港からの歴史を振り返るとともに今後の発展を祈念する式典を開催しました。式典には国会議員をはじめ、北海道議会議員、石狩湾新港管理組合議会議員、関係行政機関、港湾関連企業及び関係団体の皆様、約200名の参加がありました。

まず、実行委員会委員長である石狩湾新港管理組合管理者(北海道知事)鈴木 直道より「石狩湾新港は、札幌に最も近い港湾として、外貿定期コンテナ航路をはじめ、多くの船舶にご利用いただいていたところであり、また、周辺地域には760社を超える企業の皆様

に立地いただくなど、本道経済や道民の皆様の暮らしを支える物流拠点として成長してきました。さらに本港は、リサイクルポートとして、循環型社会の形成に向け、鉄スクラップなどの再生資源の輸出を支援するとともに、エネルギー供給拠点として、環境負荷の小さいLNG火力発電所のほか、バイオマスや洋上風力といった再生可能エネルギーを活用した発電施設が立地するなどゼロカーボン北海道の実現に向け、大きな役割を果たすことが期待されています」などと述べ、最後に「改めて関係する全ての皆様に深く感謝を申し上げます」と式辞を締めくくりました。

続いて祝辞では、函館税関小樽税関支署 日諸支署長が「石狩湾新港は開港して以来、国際貿易港として順調な発展を遂げ、輸出入額も令和4年には2千億円を突破しています。引き続き、通関続きの迅速化・効率化や様々な説明会を通じ、適切かつ円滑な通関を実現し、利用者の利便性の向上を図りながら、貿易の拡大と地域のより一層の国際化・活性化に貢献して参りたいと考えております」と述べました。次に、札幌出入国在留管理局 加藤監理官が「石狩湾新港は、北海道経済の中心であり、札幌圏の海の玄関であるばかりではなく、北海道経済と道民生活を支える生産と流通の拠点としての重要性は年々増大していると承知しており、当局においても、適正かつ円滑な出入国審査の実施により、石狩湾新港の更なる発展に寄与できれば



管理者式辞の様子